名古屋地方気象台

愛知県地震概況
令和５年（2023 年）10 月

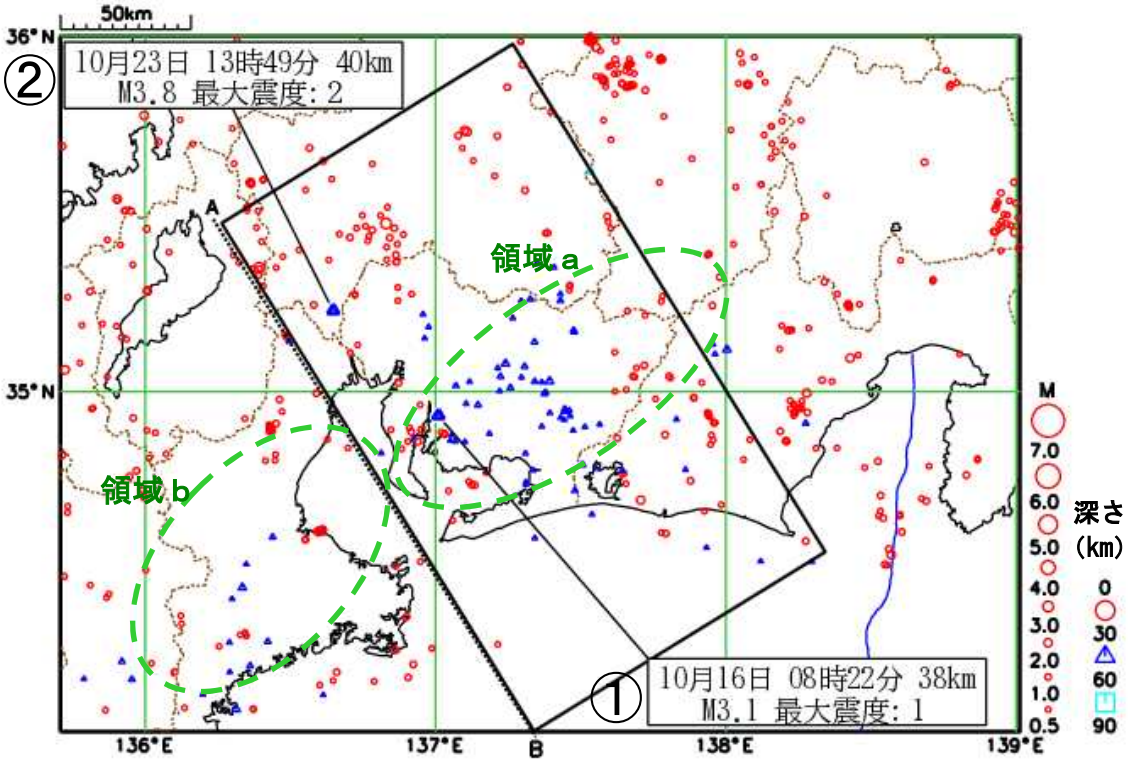
この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

○概況

１．愛知県内で震度１以上を観測した地震の状況
10 月に愛知県内で震度１以上を観測した地震が２回発生しました。

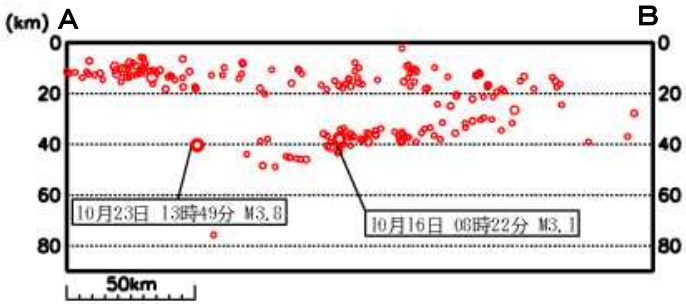
２．愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震
①16 日 08 時 22 分に愛知県西部で M3.1 の地震（最大震度１　深さ 38km）が発生しました。
②23 日 13 時 49 分に岐阜県美濃中西部で M3.8 の地震(最大震度２　深さ 40km)が発生しました。

３.深部低周波地震の活動状況
・東海（領域ａ）
９月 30 日～10 月４日、６～７日、19～23 日
・紀伊半島北部（領域ｂ）
７日、26～29 日



震央分布図（2023 年 10 月１日～31 日　深さ０～90km　M≧0.5）

深部低周波地震（微動）
深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。
（注）Ｍはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、Ａ－Ｂに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ 25km 程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度１以上を観測した地震

愛知県西部（１頁目震央分布図①）

10 月 16 日 08 時 22 分に愛知県西部で発生した M3.1 の地震（深さ 38km）により、愛知県名古屋市千種区・名古屋市中区・豊田市・知多市・高浜市・みよし市、三重県鈴鹿市で震度１を観測しました。（図１）。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

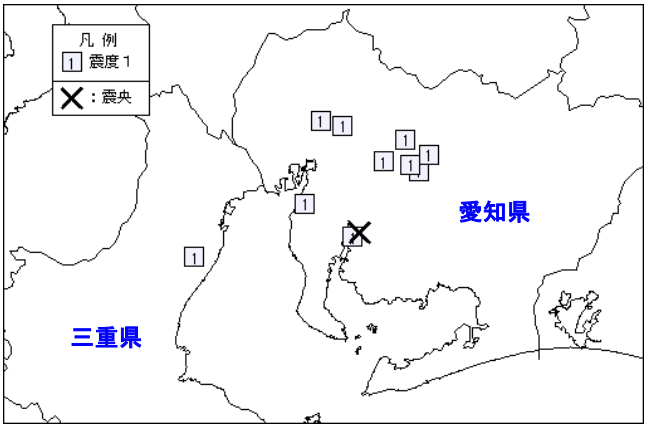


図１　10 月 16 日 08 時 22 分 M3.1　震度分布図
（観測点別、×：震央）

岐阜県美濃中西部（１頁目震央分布図②）

10 月 23 日 13 時 49 分に岐阜県美濃中西部で発生した M3.8 の地震（深さ 40km）により、愛知県名古屋市西区・名古屋市守山区・名古屋市天白区・犬山市・大府市、岐阜県揖斐川町、滋賀県竜王町・東近江市で震度２を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿地方にかけて震度１を観測しました。（図２）。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

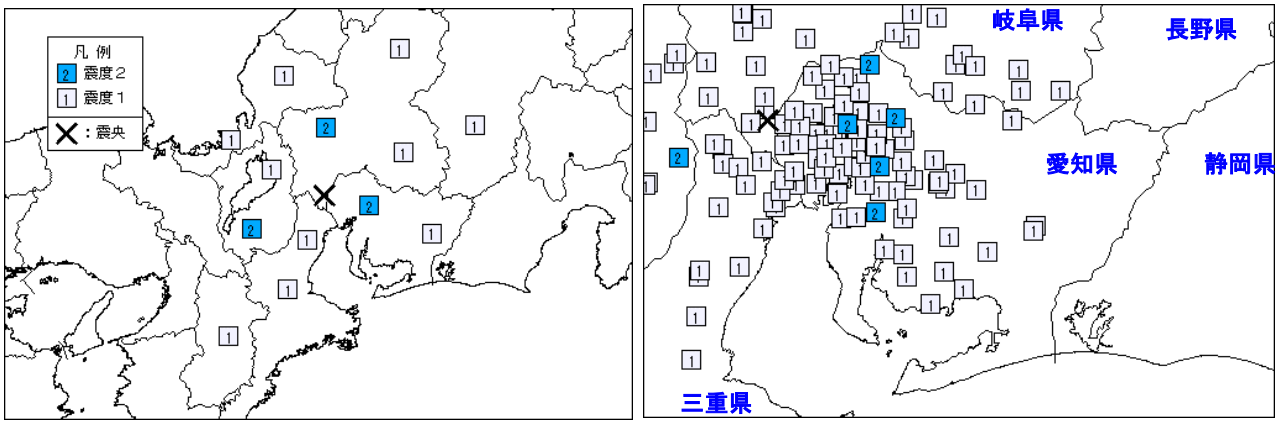


図２　10 月 23 日 13 時 49 分 M3.8　震度分布図
左図：広域（地域別、×：震央）　右図：拡大図（観測点別、×：震央）

○震度１以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）　震央地名　緯度　経度　深さ　マグニチュード 各地の震度
2023年10月16日08時22分　愛知県西部　34°55.9'N　137°00.5'E　38km　M3.1 愛知県　震度　1：名古屋千種区日和町,名古屋中区県庁＊,豊田市小坂町＊,豊田市百々町＊ 豊田市保見町＊,豊田市長興寺＊,知多市緑町＊,高浜市稗田町＊ 愛知みよし市三好町＊
2023年10月23日13時49分　岐阜県美濃中西部　35°13.7'N　136°38.8'E　40km　M3.8 愛知県　震度　2：名古屋西区八筋町＊,名古屋守山区下志段味＊,名古屋天白区島田＊,犬山市五郎丸＊ 大府市中央町＊ 震度　1：蒲郡市御幸町＊,新城市作手清岳,新城市作手高里松風呂＊,名古屋千種区日和町 名古屋北区萩野通＊,名古屋中村区大宮町＊,名古屋中区市役所＊,名古屋中区県庁＊ 名古屋昭和区阿由知通＊,名古屋瑞穂区塩入町＊,名古屋熱田区一番＊ 名古屋中川区東春田＊,名古屋港区金城ふ頭＊,名古屋港区春田野＊ 名古屋港区善進本町＊,名古屋南区鳴尾＊,名古屋守山区西新＊,名古屋緑区有松町＊ 名古屋名東区名東本町＊,岡崎市若宮町,岡崎市樫山町＊,一宮市木曽川町＊ 一宮市緑＊,春日井市鳥居松町＊,愛知津島市埋田町＊,豊田市小坂本町,豊田市大洞町 豊田市小坂町＊,豊田市駒場町＊,豊田市坂上町＊,豊田市百々町＊,豊田市保見町＊ 豊田市長興寺＊,豊田市小渡町＊,安城市和泉町＊,西尾市西幡豆町＊ 西尾市矢曽根町＊,愛知江南市赤童子町＊,小牧市安田町＊,稲沢市祖父江町＊ 稲沢市平和町＊,稲沢市稲府町＊,東海市加木屋町＊,知多市緑町＊,知立市弘法＊ 尾張旭市東大道町＊,高浜市稗田町＊,岩倉市川井町＊,豊明市沓掛町＊ 日進市蟹甲町＊,東郷町春木＊,豊山町豊場＊,大口町下小口＊,大治町馬島＊ 蟹江町蟹江本町＊,飛島村竹之郷＊,幸田町菱池＊,愛西市石田町＊,愛西市江西町＊ 愛西市諏訪町＊,清須市春日振形＊,清須市西枇杷島町住吉＊,北名古屋市西之保＊ 北名古屋市井瀬木＊,弥富市前ヶ須町＊,愛知みよし市三好町＊,あま市七宝町＊ あま市木田＊,あま市甚目寺＊,長久手市岩作城の内＊

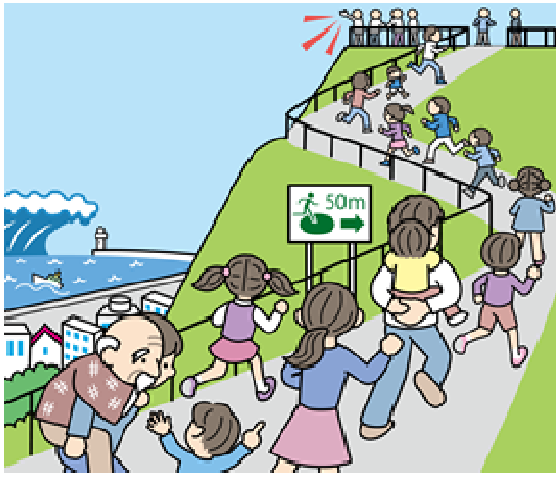
（注　＊印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。
※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。
※2020年９月以降に発生した地震を含む図については、2020年８月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

11月5日は「津波防災の日」
津波から命を守るためには すぐ避難！

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に伴う大規模な津波災害を踏まえ、同年6月に「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。この中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるようにするため、毎年11月5日を「津波防災の日」と定めました。

津波は、地震などによって生じた海底の隆起・沈降に伴い発生した海水の波が、四方八方へ広がり伝わっていく現象で、伝播速度は非常に速く、見てから逃げるのでは間に合いません。海岸や河口付近にいる場合に、強い揺れを感じたり、長くゆっくりした揺れを感じたりした場合、または、揺れを感じなくても津波警報を見聞きしたときは、以下のような行動をとることが必要です。



津波から逃げる時や避難した後について

- 直ちに『より高いところ』を目指して津波から逃げましょう！
- 逃げる時は周辺の人同士、『津波がくるぞ』と声を掛け合いながら避難しましょう。
- 車を利用すると、渋滞などにより避難できない場合があります。原則、徒歩で避難しましょう。
- 津波は繰り返し襲ってきます。避難後は、最新の情報を確認し、津波警報や自治体の避難指示が出ている間は避難を続けましょう。

津波の標識の例

つなみひなん
津波避難
津波が来襲する危険のある地域を表示

つなみひなんばしょ
津波避難場所

つなみひなん
津波避難ビル

津波に対し安全な避難場所を表示

津波フラッグについて

「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されたことをお知らせする旗です。津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されます。
令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。

津波フラッグの詳細については以下の気象庁HPをご覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

赤白の格子模様の「津波フラッグ」